



図2 講義の改善すべき点: 受講生に対する自由記述アンケートを基に作成。

一方、「講義の改善すべき点」についてのコメントから生成した共起ネットワークを図2に示した。まず「授業のスピード・ペースが速い」という意見が多数見られる。この原因として、昨年度から次のような変更をしたことが挙げられる。まず、(1) 講義では事前にスライドを公開し、予習することを事前課題として課すことで、重要度が低い部分は授業中の説明を簡略化したこと、および(2) 実習では活動の途中であっても切り上げて、残りは宿題やレポート課題等にしたことが挙げられる。事前課題については、より具体的に指示を出すことで事前学習を促す工夫が必要である(スライドを読んで感じた疑問点を提出させるなど)。宿題等については、一部の内容については自習用の解説動画を公開したが、このような自習用補助教材のさらなる充実が望まれる。

さらに、「内容が難しい」「説明不足」という意見が見られる。この原因として、まずは学生自身考えるよう意図的に説明を省いたり、少し時間をおいてからヒントを与えるようにしたことが挙げられる。このような教員側の意図が伝わっていなかった可能性があり、「まずは自分自身で考える」ことの重要性を繰り返し伝えることである程度の改善が期待される。

2.3 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度および全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムを構成する授業科目「基礎情報教育」は、1年次の必修科目であることから、「後輩等他の学生への推奨度」および「履修状況」は自己点検・評価の対象外とした。

3 学外からの視点

3.1 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価

令和5年3月の時点で、本プログラムを修了した卒業生はいない。令和7年度以降の卒業生調査において、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握が可能である。

3.2 産業界からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法等への意見

鳴門教育大学大学院には現職の学校教員が所属しており、本プログラムのデータ科学に関する講義・演習部分についての意見を大学院生から収集した。その結果、「主体的に考える活動が多い」点が評価できる一方で「高等学校における数学と情報の教科横断的な連携について知りたい」という意見などがあった。今後、改善を検討したい。

4 改善・進化に向けた取組

4.1 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本プログラムを構成する授業科目「基礎情報教育」の授業担当者間で、学生アンケートや学校現場からの意見を共有し、学校教育の観点から「数理・データサイエンス・AI等を学ぶことの意義」を理解できるよう、講義内容と実施方法の見直しを検討した。特に、教育関係のデータをより多く取り入れるべきとの意見があり、次年度以降、教育関係データの割合を増やすことを検討している。

4.2 内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とすること

内容・水準を維持・向上しつつ「分かりやすい」授業とするために、より身近に感じられたり、将来教員になった際に活用できると感じられるような内容に改善することを検討してきた。そのために、香川大学が主催する「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム四国ブロックシンポジウム」に参加するなど、情報収集に努めてきた。しかし、産業界からの視点や意見についての情報収集はいまだ不十分であり、次年度以降さらに改善を進めたい。